

中部の

エネルギーを 築いた

人々

電気保安行政の礎を築いた

澁澤元治

電気保安功労者を顕彰する澁澤賞(運営管理：日本電気協会)は、元電気学会会長澁澤元治博士(以下敬称略)の文化功労賞受賞を記念して昭和31年に始まった。澁澤は、逓信省技官として電気保安行政の確立に努め、また東京帝国大学電気科教授・名古屋帝国大学初代総長として教育・研究の場で活躍し、日本の電力・電機業発展に大きな足跡を残した。



澁澤元治(名古屋大学文書資料室提供)

修業時代・4年間の海外遊学

澁澤は明治9年10月、埼玉県大里村(現深谷市)に生まれた。伯父(母の兄)は日本資本主義の父いわれる澁澤栄一。元治は上級学校への進学や海外遊学などで伯父栄一の支援を享けた。元治は第一高等学校を経て、明治30年東京大学の電気工学科に進んだ。同級生には後に九州帝大総長となる荒川文六や日立製作所の創業者小平浪平がいた。大学3年の実習で小田原馬車鉄道の電化工事に携わり、この



澁澤栄一(名古屋大学文書資料室提供)

時の経験から卒業論文「回転変流機の極性変移の理論」をまとめ、『電気学会雑誌』にも掲載された。明治33年に卒業後、兵役、古河鋳業足尾銅山勤務を経て、明治35年5月から伯父澁澤栄一とともに海外旅行に出発、途中別れて、ドイツ・ジューメンス社での実習、スイス・チューリヒ大学での聴講、アメリカ・GEでの実習など元治の遊学は4年に及んだ。

逓信省・東大教授・名古屋帝大総長

明治39年に帰国後、逓信省に入り、電気試験所第一部長・第三部長・電気局技術課長を歴任し、発電水力調査、電気工作物規程制定、電気主任技術者制度の改正など、日本の電気保安行政の確立に尽力した。逓信省での仕事のかたわら、明治44年6月には「同期電機の特性」の研究で博士号を取得、大正12年には電気学会会長を務めた。大正7年恩師鳳秀太郎教授の招きで東京大学電気工学科の専任教



逓信省技師時代、同僚技師と共に(左端澁澤)(名古屋大学文書資料室提供)

授となり、昭和4年には工学部長に就任した。昭和12年に退官、その後14年から初代名古屋帝国大学総長に就任し、理工学部新設、東山キャンパスの整備、航空宇宙研究所の設立など、総合大学への道筋を付けた。退官(昭和21年)後は郷里深谷市に戻って著述活動を行い、昭和30年には文化功労賞を受賞、昭和50年2月99歳で没した。「以和為貴」がモットーであった。なお、名古屋大学の大学文

書資料室では澁澤家から寄贈された澁澤元治文書(1080点)が公開されている。



逓信省時代の出張命令書
(名古屋大学文書資料室提供)



名古屋帝国大学総長時代の澁澤元治
(名古屋大学文書資料室提供)

中部の電気事業との関わり

澁澤元治の著作には、戦前期中部の電気事業との関わりが記されているので、紹介する。

- ①大学3年に石川島造船所電気部で実習した際、部長岡本高介の指示で国産初の三相交流発電機(100kVA)の設計をした。発電機は飯田電灯に納入された。
- ②逓信大臣後藤新平の命で木曾川の水力調査を行い(明治42年)、木材流送を鉄道輸送に代えて水力発電を行う方が国策上望ましい旨進言し、日本の発電水力調査の道を拓いた。
- ③岐阜県八幡町の監査に出向いた際、効率の悪い乙姫滝発電所に替え吉田川の流れを利用する発電所を建設するよう助言し、明治40年2月八幡発電所(60kW)が運転を開始した。
- ④名古屋地区の調査に出向いた際、東海電気・名古屋電灯間の市場競争で、道路の片側に両社の電柱が立ち並び電線が交錯し危険な状況を目撃した。
(浅野伸一)



澁澤賞授賞式での挨拶(昭和32年)(名古屋大学文書資料室提供)



澁澤元治実家(埼玉県深谷市)(寺沢安正氏提供)